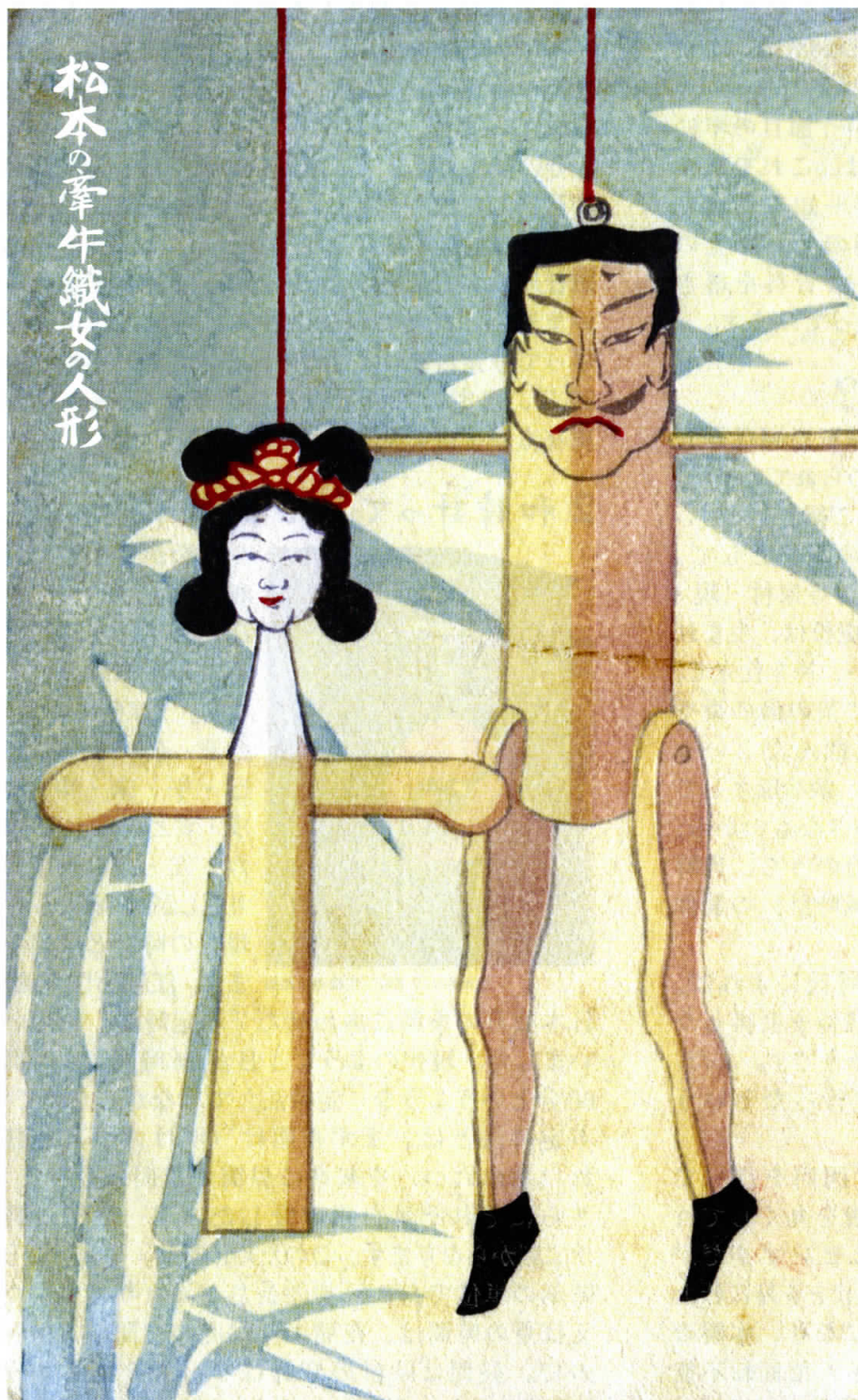


あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.163 2009.7.1



松本の牽牛織女の人形

七夕人形の絵はがき(昭和12年)

松本まるごと七夕 2009

市立博物館の七夕展

松本市立博物館

会 期 平成21年7月4日(土)～8月31日(日)

(会期中無休)

開館時間 7月4日(土)～7月17日(金)

午前8時30分～午後5時

7月18日(土)～8月31日(日)

午前8時30分～午後6時

附属施設の七夕展

窪田空穂記念館

会 期 平成21年7月4日(土)～8月23日(日)

開館時間 午前9時～午後5時

休 館 日 月曜日

馬場家住宅

会 期 平成21年7月4日(土)～8月23日(日)

開館時間 午前9時～午後5時

休 館 日 月曜日

安曇資料館

会 期 平成21年7月4日(土)～8月23日(日)

開館時間 午前9時～午後5時

休 館 日 木曜日(8月は無休)

もくじ

誌上博物館◇特別展「渡辺虎松と和時計の世界」によせて

松本市梓川上野出身の御時計師 2-3

ガイドコーナーはてんぼく 4

特別展「渡辺虎松と和時計の世界」によせて

松本市梓川上野出身の御時計師

はじめに

梓川左岸の高台にある真光寺。ここには、江戸時代に信州で活躍した御時計師・渡辺虎松信偏の偉業をたたえる顕彰碑があります。地元梓川の上野出身で、信州人として最古の和時計を製作した時計師・虎松。その人物像や業績については、必ずしも多くが解明されているわけではありません。本年は、渡辺虎松の没後160年という節目の年にあたります。松本市時計博物館では、これを機に特別展「渡辺虎松と和時計の世界～知られざる信州の御時計師～」を開催し、謎の多い郷土の時計師について、残されたわずかな資料を繙きながらその業績や和時計の魅力を探ってみます。

1 渡辺虎松 どんな人物？

渡辺虎松の人物伝については、輪湖源嗣氏調査による「渡辺虎松翁伝」などにまとめられています。以下、これを参照・引用しながら、ご紹介します。

渡辺虎松信偏は、輪湖五右衛門の嫡子として、天明2年（1782）寅年に松本藩領上野寺家村（現・松本市梓川上野）に生まれました。虎松は、生まれながら手先が器用で、自ら足袋を縫い、袴を仕立て、また水色の縮緬で袋を作り、そこに茶の湯の棗や茶筌を入れて畑の畦で茶を点てて飲んだという風流な人物だったようです。やがて、鍛冶師として刃物を作るようになり針のような小さなものから、大きな刀剣まで作っていました。そのうち、当時貴重で値段も高かった自鳴鐘（機械時計）の製作意欲が高まっていったようです。

渡辺虎松の末裔にあたる渡辺吉将氏によれば、虎松は長崎へ留学して時計作りの技術を会得したことを、言い伝えとして聞いていたそうです。また、渡辺家には、虎松が長崎へ持って行ったという道具類が長く残されていました。

時計製作を始めた虎松は、まず図面を作って研究していたようです。次に櫟の板を丸くして竹の歯を入れてゼンマイ（原文ではゼンマイだが歯車か？）を作り、ついに木製の時計を5月に仕上げました。ところが、入梅の時期になり、木製の部品が湿気を含んだことから、膨らんで回転不能となり、最初の時計製作は失敗に終わりました。この経験から木製の部品はやめ、廃品となった木挽きの大鋸を購入し、それで大小の歯車を作ったとのこと。その後は一心不乱に何度も改良を重ね、数年をかけてようやく自鳴鐘を完成させたのでした。これをそのときの松本藩主・戸田光年に

献上し、藩主から「御時計師」の称号を賜ったのです。

その後の時計製作の様子については、ほとんどわかっていません。わずかに、現代の万歩計にあたる歩時計を製作した様子として、二人の娘と一緒に歩時計を使って、大妻（松本市梓川）あたりまでの距離（約4km）を測っていたことが伝えられています。

その後、天保2年（1831）50歳の時、諏訪高島藩に召抱えられ、士族として18年間出仕し、刀剣師・渡辺虎松信偏の称号を賜ったとのこと。高島藩出仕時代のことは、残念ながらほとんど解かっていません。晩年は病にかかり、郷里の梓川上野に帰って静養していたものの、嘉永2年（1849）10月27日、自宅にて没しました。享年68歳。墓碑は現在も真光寺にあります。

2 和時計ってどんな時計？



和時計の文字盤 宝輪寺所蔵品

虎松が製作していた和時計とは、日本の江戸時代に発達した歯車式の機械時計のことです。文字盤には十二支の子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥と、九・八・七・六・五・四の数字の繰り返し配されたもので、現代の時計とは異なり

ます。江戸時代の時計は、日本独自の季節にあわせた「不定時法」を用いていました。現代のように1日が24時間、1時間が60分というような「定時法」ではなかったのです。不定時法とは、まず夜明け（明け六つ）と日暮れ（暮れ六つ）を基準に昼間と夜間に分けます。さらにそれぞれを六等分したのが一刻で一日は十二刻からなります。このため、季節・昼夜によって時刻の単位である一刻の長さが異なります。たとえば夏の時間は、夜間より昼間の時間の方が長いので、昼間は時計の指針はゆっくり動くように「明け六つ」に調整されます。逆に夜間は昼より短いので指針は速い速度で動くように「暮れ六つ」に調整されました。こうした調整の方法には、1本の「天符」（時を刻む推進力を生む振り子のようなもの）に付けられた錘の位置を変えて行う「一挺天符式」、もう1本天符を増やして昼と夜に切り

替える形式の「二挺天符式」^{に ちようてん ぶ しき}、錘や天符を替える方法でなく、文字盤の目盛の位置を動かして調節する「割駒式」^{わり こま しき}などがありました。こうした不定時法に対応するように、時計師の手で昼夜の錘の位置や文字盤の時刻を示す数字の位置を変えるなどの調節が行われました。

3 現存する虎松製作の和時計

現在、わかっている渡辺虎松が製作した時計は、わずか4台です。このうち3台には、虎松の名前、製作年、由来などが刻書されています。残り1台は、永らく渡辺家に伝えられてきたものです。

1 古川寺（東筑摩郡朝日村）所蔵品

東筑摩郡朝日村の古川寺にある時計は、昼夜の切り替えが自動で行われる二挺天符式で、目覚まし機能やカレンダー機能が付いている優れものです。本体部分の大きさは、縦13.2cm、横13.2cm、高さ19.7cm、櫓にのせると高さは106cmにもなります。本体部分の側板は真鍮製で、風景画が刻みこまれ、背面には次のような文字が刻まれています。「信州筑摩郡古見古川寺現住法印常應求之 天保五甲馬初秋日 時計師 上野寅松」。



古川寺所蔵の和時計

信州筑摩郡古見（現・東筑摩郡朝日村）古川寺の住職常應の求めで、天保5年（1834）の秋に製作したものです。天保5年は、古川寺の庫裏が完成した年で、これにあわせて住職・常應が時計を求めたと考えられています。虎松52歳の時に製作されたもので、現存するものの中では、最もオリジナルな形態が残されているものです。

2 宝輪寺（松本市今井）所蔵品

宝輪寺が所蔵し、現在は松本市時計博物館に寄託され、常設展示室で動態展示されています。この和時計は、もともとは二挺天符式で、目覚まし機能やカレンダー機能も付いていたものですが、部品の欠損が多く、現在は一挺天符に修復されています。本体側板には菱紋が上品に刻まれています。本体天井板裏面には「諏方上宮 神変山植用観照代 文政三庚辰於自立坊」、また底板裏面には

「御時計師 當国安曇住 上野信偏作」の刻銘があります。この銘文から、この時計はもともと諏訪大社の神宮寺住職観照が、文政3年（1820）に38歳の渡辺虎松に作らせたものだったようです。しかし、これがどのような理由で松本市今井の宝輪寺に移ったのかは解っていません。

3 渡辺吉将氏所蔵品（文化14年製作品）

これまで飯田市の原彰一氏所蔵品として紹介されてきたもので、近年渡辺氏の所蔵となりました。本体底板裏面には「文化十四丁丑二月 信州上野住 御時計師 渡辺虎松信偏作」と刻まれています。文化14年（1817）、虎松35歳の時に製作されたもので、信州人が製作した和時計では最古にあたるものです。

4 渡辺家伝来品

古くより渡辺家に伝来していたもの。部品も欠損し、バラバラの状態になっていたものを、渡辺氏が委託して復元しました。一挺天符で文字盤は割駒式のもので、文字盤周囲には、弧状に草花文が配されています。



渡辺家伝来の和時計

おわりに

中世ヨーロッパで発明された機械式時計は、天文20年（1551）イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルによって日本にもたらされ、周防国（山口県）の領主・大内義隆に献上されました。このときの時計はもちろん定時法です。こうした時計をお手本にしながら、日本の不定時法にあった時計として動かすには、日本の時計師たちのより一層の工夫と壮絶な努力が必要でした。

中世ヨーロッパで発明された技術は、時を経て江戸時代の信州安曇野において、御時計師・虎松によって脈々と受け継がれ、素晴らしい和時計が製作されていました。この特別展を通し、これまであまり広く知られてこなかった郷土の時計師の、英知と技術が結集された和時計をぜひご覧ください。

（時計博物館 学芸員 / 竹内 靖長）

参考文献

- 渡辺吉将 「及古」—御時計師渡辺虎松信偏顕彰碑建立について— 1980
北野 進 「安曇野の近代化遺産—技術史再考—」近代文芸社 2007

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

特別展「よみがえる至宝—デジタル技術の粋—
—世界に誇る日本の屏風絵から—

会 期 8月1日(土)～30日(日) 会期中無休
会 場 2階特別展示室
内 容 NHK大河ドラマ「天地人」の地元、米
沢市上杉博物館所蔵の国宝「洛中洛
外図」をはじめ「風神雷神」「竜虎図」「松
林図」ほか大型屏風絵を高精細複製品
により身近に鑑賞する機会を提供します。
実 演 会 8月1日、14日～16日、30日
伝統工芸士による金箔施工の実演が
あります。「匠の技」をこの機会にぜひ
ご覧ください。
観 覧 料 特別展観覧料が必要になります。

考古博物館から ☎0263-86-4710

第31回あがたの森考古学セミナー
『広がる松本・西山麓の縄文時代』(全2回)

日 時 ①第1回「梓川の縄文時代～
荒海渡遺跡から」
7月11日(土) 午後1時30分～3時
②第2回「西山麓の縄文時代～
山形村の縄文遺跡から」
7月25日(土) 午後1時30分～3時
会 場 あがたの森文化会館2-8教室
講 師 ①文化財課主査 直井 雅尚
②山形村教育委員会 和田 和哉氏
定 員 各回60名程度
申 込 不要
問 合 せ 考古博物館まで

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

日 時 第4回 7月26日(日) 午前10時～正午
松風の会(表千家)
第5回 8月23日(日) 午前10時～正午
おしゃべ茶道の会(裏千家)
参 加 料 通常観覧料
(大人個人300円・中学生以下無料)

七夕人形作り講座

期 日 7月19日(日)
内 容 誰でも簡単に七夕人形が製作できるキ
ットを使って七夕人形を手作りしてみま
せんか。
受 講 料 1,000円(キット代)及び入館料
申 込 電話で馬場家住宅まで

はた織り体験教室

期 日 第2回 7月25日(土) 和紙織り
第3回 8月22日(土) 自然物織り
午前のクラス 10時～12時
午後のクラス 1時～3時
受 講 料 各講座1,000円(入館料込み)
申 込 電話で馬場家住宅まで

安曇資料館から ☎0263-94-2134

安曇資料館見学会 シダ植物の秘密

日 時 7月29日(水) 午前8時～午後5時
※安曇支所集合解散
内 容 いつもは見落としがちなシダに注目しな
から、鳥谷谷を歩きます(往復約14km)。
講 師 佐藤利幸氏/信州大学理学部・山岳
科学総合研究所 教授
定 員 20人
料 金 保険・資料代200円
申 込 7月10日(金)午前9時から電話で

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

短歌講座

日 時 7月5日(日) 午後1時50分～4時
会 場 窪田空穂生家
講 師 馬場あき子氏 受講料 1,500円

空穂生家子ども教室

期日・講師・対象

教室名	開催日	時間	指導者	対象者
空穂生家 囲碁教室	7月29日(水) ～31日(金)	午前10時10分 ～正午	地元 指導者	小中学生
空穂生家 将棋教室	7月18日(土)	午前10時10分 ～午後4時	プロ棋士	午前:小中学生 午後:大人
	7月4日(土) 8月1日(土) 8月2日(日)	午後1時～4時	地元 指導者	小中学生
空穂生家 折り紙 教室	7月12日(日) 7月25日(土) 8月5日(水) 8月6日(木)	午前10時10分 ～正午	小松佳子氏	小中学生

会 場 窪田空穂生家 受講料 無料
申 込 各教室の実施当日までに電話で

子ども短歌教室

日 時 8月29日(土) 午前10時10分～12時
会 場 窪田空穂生家
対 象 中学生以下の児童・生徒及び家族
講 師 三浦慎子氏 受講料 無料
申 込 8月18日(火)～8月29日(土) 電話で

短歌の教え方講座

日 時 8月29日(土) 午後1時～3時
会 場 窪田空穂生家
対 象 教職員及び希望者
講 師 三浦慎子氏 受講料 無料
申 込 8月18日(火)～8月29日(土) 電話で

「松本の子どもの短歌・2009」短歌募集

募集期間 7月1日(水)～10月30日(金)
対 象 市内小中学校及び盲・ろう・養護学校在
学の児童・生徒
応募方法 規定の応募用紙に記入して、学校単位
で窪田空穂記念館へ提出
入賞発表 平成22年2月 作品展 平成22年3月
その他 応募者全員に作品集を差し上げます。

バス見学会 文学散歩「松本平の歌碑めぐり」

期 日 7月24日(金)
集 合 松本市役所東庁舎前 午前8時20分
行 先 松本東南部・塩尻方面
解 散 松本市役所東庁舎前 午後4時30分
定 員 26名(先着順) 参加料 500円
申 込 7月14日(火)午前9時から電話で(FAX不可)

夏季講座「七夕を楽しむ」

日 時 8月1日(土) 午前10時～12時
場 所 窪田空穂生家
内 容 伝統的な七夕について学びます。また、
琴の演奏も合わせてご堪能ください。
受 講 料 100円 定 員 50名
申 込 7月21日(火)～8月1日(土) 電話で

四賀化石館から ☎0263-64-3900

化石教室

日 時 7月25日(土)・26日(日)
8月1日(土)・2日(日)
時間はいずれも午前9時から午後4時
内 容 化石採集とレプリカづくり
対 象 小学生以上(保護者同伴)
定 員 各回30名 受講料 1,000円
持 ち 物 弁当・水筒・雨具・帽子・長袖
申 込 7月1日(水)午前9時から

歴史の里から ☎0263-47-4515

裂き織り体験

日 時 7月9日(木)・23日(木)・8月27日(木)
午前10時～午後3時まで
(1時間づつの時間帯に分かれます)
定 員 各時間帯5名ずつ
体 験 料 ティッシュケースがつくれるサイズ 500円
ペンケースがつくれるサイズ 1,000円
持 ち 物 はさみ、裂き織りにてみたい布(お持ちでしたら)
申 込 3日前までに歴史の里へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展 「涼しさの夏 ガラス展」

会 期 7月7日(火)～9月6日(日)
観 覧 料 通常観覧料
(大人300円・中学生以下無料)
内 容 樺の杜から流れてくる風の中で、ガラス
工芸品の数々をゆっくり楽しんで下さい。

時計博物館から ☎0263-36-0969

渡辺虎松没後160年記念特別展

「渡辺虎松と和時計の世界
～知られざる信州の御時計師～」
会 期 8月4日(火)～9月6日(日)(月曜休館)
午前9時～午後5時
会 場 時計博物館 3階企画展示室
内 容 松本市梓川出身で、江戸時代に信州で
活躍した御時計師・渡辺虎松にスポット
をあて、和時計の魅力をご紹介します。
観 覧 料 特別展は観覧無料(常設展は有料)

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

ギャラリー企画展

パネル展「松高生が暮らした松本の今」

会 期 7月18日(土)～9月6日(日)
会 場 旧制高等学校記念館ギャラリー
内 容 記念館に遺された32冊の松高生のアル
バムのなかから、当時の松高生が見た
松本がどのように変わっているのか、写
真でご紹介します。

第75回 サロンあがたの森

日 時 7月11日(土) 午後1時30分から
会 場 あがたの森文化会館1-5教室
内 容 話題/歴史の「山人」たち—登山・実業・
宗教・作家等の巨匠と実像
話題提供者/
菊地俊朗(山岳ジャーナリスト)

第76回 サロンあがたの森

日 時 8月8日(土) 午後1時30分から
会 場 あがたの森文化会館1-5教室
内 容 話題/信州でマグロの刺身が食べられ
るようになった理由
話題提供者/
井口義久(松本高校・造船設計)

※上記、いずれも入場無料です。

あとがき

多くの人に支えられて毎日無事生きられるのだなあと感謝
しています。他の担当者のあとがきを読んで、皆さんすい
なあと溜息。学芸員として勉強なくては。プラスαの生活
が送られるようがんばります。って、がんばれるかな? (RY)

あなたと博物館 No.163

発行年月日/平成21年7月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: http://www.matsu-haku.com
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp
印刷 川越印刷株式会社